

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 39人 国語B 39人

② 算数A 39人 算数B 39人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

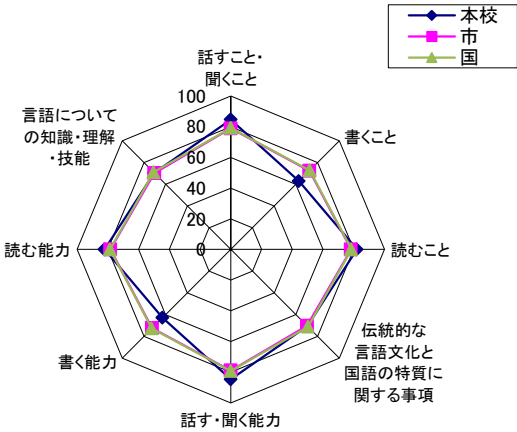
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

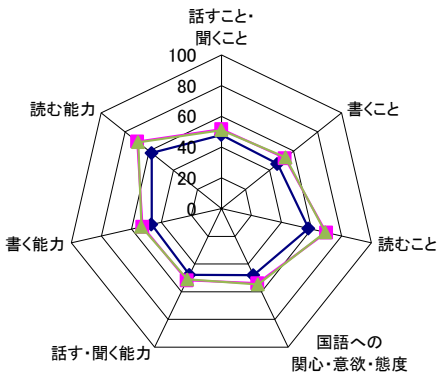
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	84.6	78.8	79.2
	書くこと	62.8	72.4	72.8
	読むこと	82.1	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.5	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	84.6	78.8	79.2
	書く能力	62.8	72.4	72.8
	読む能力	82.1	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	70.5	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	47.9	51.7	51.1
	書くこと	46.6	52.7	53.4
	読むこと	58.1	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	48.1	53.8	54.7
	話す・聞く能力	47.9	51.7	51.1
	書く能力	46.6	52.7	53.4
	読む能力	58.1	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

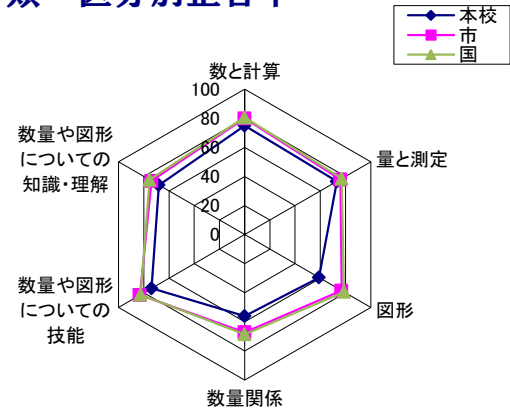
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aにおける本校正答率は84.6%であり、市の平均と比較すると5.8ポイント、全国の平均と比較すると5.4ポイント高い。	・前年度からの指導に効果が見られた。今後もさらに話すこと・聞くことの力が高められるように、計画的にスピーチ・ディベート・インタビューなどの言語活動に力を入れて取り組む。
書くこと	●国語Aにおける本校正答率は62.8%であり、市の平均と比較すると9.6ポイント、全国の平均と比較すると10ポイント低い。国語Bにおける本校正答率は46.6%であり、市の平均と比較すると6.1ポイント、全国の平均と比較すると6.8ポイント低い。	・目的や意図に応じて自分の考えを書く力を高めるために、新聞作りや意見文、紹介文等の書く活動を多く取り入れる。
読むこと	○国語Aにおける本校正答率は82.1%であり、市の平均と比較すると3.8ポイント、全国の平均と比較すると3.6ポイント高い。 ●国語Bにおける本校正答率は58.1%であり、市の平均と比較すると11.8ポイント、全国の平均と比較すると11.2ポイント低い。	・文章を読み、目的に応じて、文の内容を的確に読み取り、自分の考えを明確にすることができるように、著者の意図するところは何かを意識しながら読む活動を多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aにおける本校正答率は70.5%であり、市や全国の平均とほぼ同じである。	・漢字の読み書きとも、正答率の高い漢字と正答率の低い漢字があるため、全体的に正答率を高められるように、漢字の意味や部首の意味を確認し理解させる活動や例文を作る活動を取り入れる。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

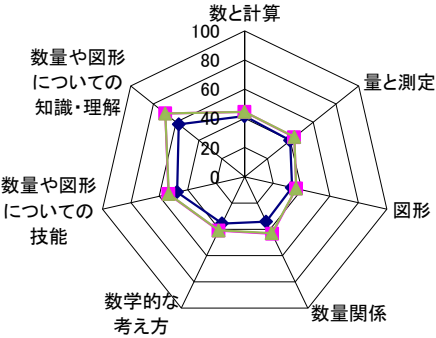
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	74.9	79.9	80.5
	量と測定	73.1	75.9	77.0
	図形	59.0	76.9	78.8
	数量関係	56.0	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	73.8	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	68.1	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	41.5	44.5	44.4
	量と測定	40.0	43.5	43.7
	図形	33.3	36.2	36.3
	数量関係	34.2	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	35.6	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	47.4	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	57.7	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○除法における確かめ算の正答率は本校では94.9%であり、市の平均との比較で8.5ポイント、全国平均との比較で7ポイント上回る。 ●算数Aにおける本校正答率は、74.9%であり、市の平均との比較で5.1ポイント、全国の平均との比較で7.7ポイント低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、40.8%であり、市の平均との比較で4.4ポイント、全国の平均との比較で6.4ポイント低い。	・分数÷整数の計算の正答率が低い。除数が整数である場合の分数の除法の計算を、繰り返しドリル学習する。 ・小数の加法の仕組みの正答率が低い。計算結果のおよその大きさを捉える機会を増やしたり、単位となる小数のいくつ分で小数の大きさを表したりする機会を増やす。 ・基本的な整数の四則計算はできるが、小数や分数が含まれるものなどでは、正答率が低い。毎日の宿題や朝学などで練習し、習熟を図っていく。
量と測定	○正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める問題の正答率は本校では94.9%であり、市の平均との比較で3ポイント、全国平均との比較で2.3ポイント上回る。 ●算数Aにおける本校正答率は、73.1%であり、市の平均との比較で2.5ポイント、全国の平均との比較で3.9ポイント低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、40.0%であり、市の平均との比較で2.3ポイント、全国の平均との比較で3.7ポイント低い。	・単位量当たりの大きさを求める問題の正答率が低い。身の回りの課題を用いて、様々な考え方で問題を解決できる活動を設定するようにする。 ・正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める問題の正答率は高いが、なぜその答えになるかを記述する問題の正答率が低い。日常の事象を数理的に捉え、自分の考えをノートにまとめたり発表したりすることができるように指導していく。
図形	○示された四角形を並べてできる図形を選ぶ問題の正答率は本校では30.8%であり、市の平均との比較で5.6ポイント、全国平均との比較で5.4ポイント上回る。 ●算数Aにおける本校正答率は、59.0%であり、市の平均との比較で7.5ポイント、全国の平均との比較で9.8ポイント低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、33.3%であり、市の平均との比較で1.7ポイント、全国の平均との比較で3ポイント低い。	・直方体の示された面に対して垂直な面を選ぶ問題の正答率が低い。それぞれの図形の特徴について、もう一度確認をし、しっかりと理解させる。 ・正方形に内接する円の半径についての問題の正答率が低い。複数の図形が組み合わされた問題等を、図形の性質と関連させながら考えられるように指導する。
数量関係	○示された式に数値を当てはめる問題の正答率は本校では48.7%であり、市の平均との比較で1.1ポイント上回る。 ●算数Aにおける本校正答率は、56.4%であり、市の平均との比較で8.6ポイント、全国の平均との比較で12.1ポイント低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、34.2%であり、市の平均との比較で6.9ポイント、全国の平均との比較で8.7ポイント低い。	・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合を求める問題の正答率が低い。基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえられるようにするために、乗除の関係を数直線に表して理解し式を決定する学習を丁寧に指導していく。 ・示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ問題の正答率が低い。グラフに表されている事柄を読み取ることを重点的に指導し、多くのグラフを提示して復習していく。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的な回答は97.4%であり、県・全国平均を上回った。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対する肯定的な回答は84.6%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定的な回答は97.5%であり、それぞれ県・全国平均を上回った。これは、各家庭において「早寝 早起き 朝ごはん」の習慣化がきちんとなされているからであると考えられる。今後も、各家庭と連携しながら、規則正しい生活の習慣化を継続していけるように指導していきたい。

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」に対する肯定的な回答は92.4%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的な回答は92.3%となり、それぞれ県・全国平均を大幅に上回った。これは、日々の活動において、大半の児童が責任ある役割を任される機会が多く、協調性や自己肯定感が高められているからであると考えられる。また、これらの結果から「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が92.3%、また、「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が100%となり、それぞれ県・全国平均を大幅に上回ることになった。今後も、互いに協力しながら困難を乗り越えることで得られる喜びを味わえるような機会を増やしていきたい。

○「友達との約束を守っていますか」に対する肯定的な回答は100%、また、「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定的な回答は94.9%となり、県・全国平均を上回った。これは、学校生活において、規則や友達との約束を守る道徳性が養われているからであると考えられる。

●「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」に対して同意する回答が87.2%であり、県・全国平均を上回った。一方、「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は100%、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は94.9%であることから、大半の児童は国語の勉強の重要性を理解していると考えられる。今後は、国語の授業の大切さを指導しつつ、文章を書く機会を増やすことで、書く力が養われるような指導をしていきたい。